

日本レジャー・レクリエーション学会 第29回学会大会大会本部企画

日時：第1日目 12月4日(土) 午後

大会テーマ

『メディアとスポーツ“今までとこれから”』

現代社会の中で、レジャー活動の身体的領域に存在するスポーツ(Physical Recreation)は、最早、単一の文化形成ではなく多領域に及ぶ複合的な存在であり、家庭、学校、地域、職域などあらゆる場面で耳目に接し、また直接的、間接的な関係を問わず生活の中で何らかの接点を有している。それは見たり、聞いたり、読んだり、話をしたり、と共通な話題としての意味合いを強く持ち得る存在でもあるからといえる。スポーツが単に趣味の世界にとどまらず、多くの分野に影響を与え、時には経済的側面で捉えられ、時には社会にセンセーションを起こし、人の生き方や考え方にまでその影響が及ぶほどの意味合いを持つ出来事を醸し出している。

スポーツの社会的存在に大きな役割を果たしているものが、“メディア”でもある。メディアにとってのスポーツは、付け足しの領域ではなく、欠く事のできない重要な領域の一翼を担っている媒体機能である。そのメディアの技術革新もスポーツ映像をどう捉え、どう伝えるかというメディア側の発想の視点からと、聴視者等のニーズはどのような映像や解き明かしを期待しているのかにより、新しい“メディアにおけるスポーツ映像文化”が生み出されているといっても過言ではない。

そこで第29回学会大会のテーマは、「メディアとスポーツ“今までとこれから”」と題し、西田善夫氏と沢松奈生子氏に講演をお願いし、演題をそれぞれ～見せるためのスポーツ映像の変遷～と～選手の側から見たスポーツ映像の意味～からの視点を中心にお話頂くこととなった。ミレニアムイヤー(Millennium Year)の動きと共に、来年のシドニーでのオリンピックや日韓両国において開催される2002年のワールドカップもスポーツにとっても、メディアにとっても存在意義を明確にアピールするまたとないその機会であり、競技者を核(Core)とするその広がり(Para)は、多くの人が関与し、様々な人間活動や人間模様が展開されるのであり、まさにレジャー・レクリエーションそのものなのである。

(学会ニュース No.65 OCT.1999より)

講演 14:45～15:45(60分)

1) 『選手の側から見たスポーツ映像の意味』

沢松奈生子氏 (テニスプレーヤー)

16:00～17:00(60分)

2) 『見せるためのスポーツ映像の変遷』

西田 善夫氏 (NHK解説委員:横浜国際競技場 場長)